

1年「二十歳になった日」

書き手の立場から
随筆を読み味わおう

指導時期 3 学期

指導時間 4 時間

教科書
P.224-227

関連 学習指導書1下・P264

この指導案について

- 随筆の特性（経験や見聞について、自分にとっての意味や考えを書いた文章）を重視し、随筆を書く意義や読む意義を考えさせる。
- 教材文を読む前に、自分が次に随筆を書くことを想定して、書き手として決めるべきこと（題材とする経験や見聞の発掘、その意味や価値、表現の方法など）をイメージさせることで、主体的に読む構えを形成したい。
- 何を（内容）をどのように書いているか（表現）だけでなく、筆者がなぜその内容を書いたのか（その経験や見聞を題材として選んだ理由、動機）を推察する。そうすることで、「他者のものの見方・考え方に触れる」という随筆を読む本質的な意義に気づいたり、次の教材で随筆を書く際の題材設定に役立てたりすることができる。
- 随筆では「語彙ブック」（P267）にある「情景を表す言葉」「心情・行為を表す言葉」「思考するときの言葉」のいずれも豊かにすることができる。気になる語句を書き留め、書くことに生かす。

指導目標と評価

観点	指導目標	評価規準と評価方法
知識・技能	● 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知・技 (1) ウ]	● 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(ノート・ワークシート)
思考判断・表現	● 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 [C読む (1) エ]	● 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(ノート・発言)
主体的に学習に取り組む態度	● 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]	● 文章に取り上げた内容、構成や展開、表現の効果について叙述を基に積極的に捉え、自分が随筆を書く見通しをもちながら、着目した内容や表現について話し合おうとしている。(観察・ノート・発言)

学習の流れ		は、本指導案の重点となる時間
時間	主な学習活動	学習指示・指導上の留意点など
1	自分が書き手になることを念頭に置いて全文を読み、概要をまとめる。 ① 随筆とは何かを理解する。 ② 随筆を書く前に書き手が悩みそうなことを考えてみる。 ③ 作品を通読し、概要をまとめる。 ④ 漢字や語句について確かめる。	● 次の教材で随筆を書くことを予告し、書き手の立場に立って考えることで、筆者の書こうとした内容や表現の工夫を主体的に読み取ることができるようにする。 ● 次のような観点で書き手が悩みそうなことを考えさせる。 → 内容面（何を書くか）…自分が変わったきっかけ、経験や見聞の詳細、今の自分につながる意義など。 → 表現面（どう書くか）…取り上げるエピソード、描写のしかた、書きだし、展開、結び方など。 ● 概要は、「筆者にとって、……（体験：いつ、どこで、誰が、どうした）は、……（意味づけ・価値・考え）であった」とような文型で要約させるとよい。
2	筆者が何を書こうとしたか、なぜそれを書いたのかを読み取る。 ⑤ 前時にまとめた作品の概要を基に、筆者が何を書こうとしたかを確かめる。 ⑥ 筆者がその体験を書こうとした背景にある考えや体験の意味を、文章を引用しながら話し合う。	● キーワード（「二十歳」「まっすぐ」「道」「歩く」「ありがたい」「うれしい」「幸せ」など）を筆者になったつもりでマッピングしてみると、内容や筆者のものの見方・考え方を捉えやすい。また、次の教材の題材設定の際にも生かすことができる。
3	筆者が経験やその意味をどう書いているか、構成や展開、表現の効果捉える。 ⑦ 文章全体の展開の工夫について、叙述を基に確かめる。 ⑧ 筆者の考えがよく伝わる表現の工夫を取り上げて話し合う。	● 構成や展開については、作中の「時」に着目することで捉えやすくなる。 ● 語句選びの効果を考える際には、気になった語句を「語彙ブック」やノートに書き込ませておき、次の教材で随筆を書く際の参考にさせるとよい。 ● 短文の多さや常体などが生み出す効果（リズムやテンポのよさ）は、音読などで味わわせたい。
4	筆者の随筆で心に残った内容や表現を整理し、学習をまとめる。 ⑨ 個人でまとめる。 ⑩ 他者と共有する。 ⑪ 随筆を読む意義をまとめる。 ⑫ 筆者の随筆から、自分が随筆を書く際に参考にしたいことを整理する。	● 自分の考えを明確に言語化して他者と語り合わせることで、同じ作品に対する多様な読み方や感想に触れ、随筆を読む意義や楽しさについての認識を広げたり深めたりさせる。 ● 随筆を書く立場から参考にしたいこと（内容・表現）を整理しておくことで、次の教材につなげさせる。